



4年 松村 真歩さん

小四 松村 真歩

# 作文

『点画のつき方・交わり方』

※文の字のはらいがむずかしかったけど、自分ではよくできたと思います。



1年 鈴木ひとみさん



『紙ねん土でかいたよ!』

※指や手のひらで、紙ねん土をのぼして絵をかきました。ねこの形を工夫しました。

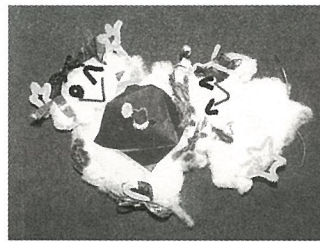


『アニメーションボックス』



5年 古川 和明くん

※飛行機の色づかいと、中のカードのUFOの現れ方や落ち方を工夫しました。



『ふわふわキュツ!』

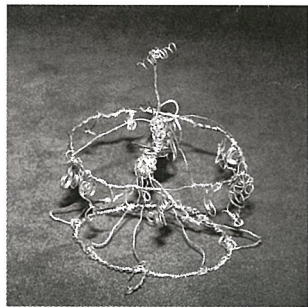


2年 岩澤 奈緒さん

※雲の天使を作りました。天使の手をリボンでキュツと詰めて工夫しました。



6年 土屋 大樹くん



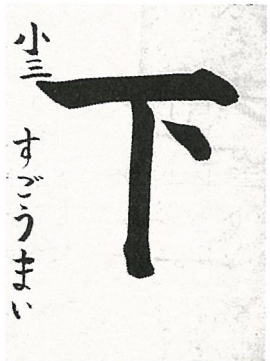
『くるくるバランス』

※パランスをとるのが難しかったですが、かざりのつけ方を工夫しました。



3年 須合 麻衣さん

※習字は、2年生の時から習っています。たて画と点に気をつけて書きました。



『筆使いの学習』

あつまれみんなの力作



## ひかり俳壇

布施 和代(二又)  
今日ありて蝦夷の地を踏む夏帽子  
長い戦いが終り古希を過ぎた作者、北海道へ旅遊したときの心情が上に凝縮された

川島 重一(尾垂)  
パナマ帽亡夫の包は捨てがたし  
半世紀前の父の遺愛のパナマ帽を通して作者の亡き父への慕情が巧みなく詠まれた

大木 素風(二又)  
夏帽子笑顔が似合う団子鼻  
面白い描写だが上五はむぎわら帽に限定した方が童という印象が深まると思う

伊藤 幸枝(尾垂)  
若いわよと言われ恥じらう夏帽子  
鈴木とし子(宝米)  
いたわりの言葉かけ合ひ夏帽子  
山崎 てい(二又)  
木洩日やお地藏様も夏帽子

伊藤 雅子(尾垂)  
夏帽子家族旅行の連れとなり

短評 椎名しげる  
評者吟 緑蔭まで試歩を延ばして終りとす